

会 議 録

会議名	平成 25 年度 第 6 回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成 25 年 11 月 8 日 (水) 午前 9 : 30～午前 11 : 30
開催場所	丸亀市役所 別館 5 階第 1 会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p style="text-align: center;">岡本 恵子 金 永子 黒田 英津子 森 茂 石原 茂 仁科 清 早馬 倫代 日野 明世</p> <p>(説明のために出席した者)</p> <p style="text-align: center;">企画財政部長 大林 諭 政策課長 小山 隆史 政策課副課長 渡辺 研介</p>
議 題	<p>1. 外部評価報告書について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	なし
発言者	議事の概要及び発言の要旨
小山政策課長	<p>ただ今より、第 6 回の丸亀市行政評価委員会を開会いたします。</p> <p>今回は (外部評価) 報告書素案を資料とさせていただきます。</p> <p>それでは、以後の進行につきましては、会長に議長をお願いします。</p>
金会長	<p>おはようございます。それでは、議事に入ります前に、現在 8 名の委員のうち全員の出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>では、議事に移ります。「議事の 1 外部評価報告書について」事務局に説明をお願いします。</p>
政策課渡辺	<p><資料に基づき説明></p>
金会長	<p>ありがとうございます。それでは、前回会議において 6 事業が決定しましたが、まだ 4 事業残っていますので、一つずつ議論し、最終的な結論を出していきたいと思えます。</p> <p>事業 No. で言うと 1 の「コミュニティバス・生活バス路線等運行維持費」 2 の「自治会振興費」 4 の「小中一貫教育推進事業費」 8 の「放課後子どもプラン事業費」について議論していきたいと思えます。前回会議において、事業 No. の大きいほうから議論していきましようということだったので、今回も、事業 No. 8、No. 4、No. 2、No. 1 の順で議論します。</p> <p>まず、「事業 No. 8 放課後子どもプラン事業費」です。少し前回の会議を思い出さないとはいけませんが、前回、最終的に票決を採りましたところ、事業の方</p>

<p>政策課渡辺</p>	<p>向性について、7名の委員の方のうち、「拡充3」「改善1」「維持3」ということで、もう一度議論をしてから最終的な決を採りたいというところで終わったかと思います。まずは、ご意見があれば出していただき、決を採りたいと思います。基本的には同じ票数だった【拡充】か【維持】になると思います。</p> <p>【拡充】と【維持】の違いがどうだったでしょうか。</p> <p>前回会議でいただいたご意見を簡単にご説明します。</p> <p>まず、「放課後子どもプラン事業」につきましては、予算や人員が伴いますが、小学6年生まで拡大が必要であるというご意見をいただいております。また、ヒアリングの時に「前倒して小学6年生まで拡大はしない」と言っていたが、改めるべきであるというご意見もいただいております。今後、法改正により小学校6年生までの拡大が予定されているため【維持】としましたが、【拡充】に近いのご意見もいただいております。</p>
<p>金会長</p>	<p>そうでしたね。従来3年生までだったものを6年生まで拡大することについて、【拡充】と【維持】で分かれていたかと思います。</p> <p>ご質問等がございましたらどうぞお願いします。</p>
<p>日野委員</p>	<p>今の【維持】の説明は、今6年生までやっていない現状を維持するというものではないわけですね。</p>
<p>森副会長</p>	<p>そうです。法改正により小学校6年生まで拡大することとなっていますので、その路線に沿うという意味で【維持】です。【拡充】には、その時期の前倒しという意味が含まれていると思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>他に補足しておきたいことはございませんか。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>今の話は「青い鳥教室」だけのものだったと思います。私は、コストパフォーマンスの面からも、地域で行う「放課後子ども教室」に目を向け、今は5箇所程度にとどまっているものを拡充し、「青い鳥教室」だけでなく色々なタイプの子どもの居場所作りをして欲しいと思い、【拡充】としました。</p> <p>【拡充】とすると、市役所はこの事業をどんどん大きくしていくように解釈するのですか。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>やみくもにどんどん広げるということではありません。ただ、今の意見は、現在の箇所数を今後増やす方向性という意味では【拡充】でいいと思います。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>【拡充】とは、予算を付けて人員を増やすという方法が採られるのですね。それでは、【改善】はどんなものなのでしょう。</p>

小山政策課長	<p>【改善】は、やり方を見直す、ムダを省くということが考えられます。</p>
岡本委員	<p>では、【改善】になったら人員を減らすという意味ではないですね。</p>
小山政策課長	<p>【改善】によって、結果として経費や人員が削減できる場合はあると思いますし、市民サービスの向上につながる場合もあると思います。基本的に事業規模は変えずに中身を改善するというものを【改善】と考えております。</p>
金会長	<p>ご意見が出尽くしたようなら、再度、票決を採りたいと思います。</p> <p><拡充5名、改善3名></p> <p>それでは、この事業については【拡充】とします。</p> <p>続いて、「事業No.4 小中一貫教育推進事業費」に移りたいと思います。事業の方向性として【拡充】【改善】【縮小】【廃止】とばらついておりますが、意見を見ていると、必ずしも異なる方向性ではありません。このことについて、どうして【拡充】【改善】【縮小】【廃止】にしたのか、それぞれの考えをお願いします。</p>
岡本委員	<p>私は【廃止】という方向で意見を出しました。</p> <p>理由としては、まず、小中一貫教育の成果や費用対効果を精査し、見直す時期になっているのではないかとということが挙げられます。</p> <p>また、小中一貫教育は、総合計画において市が丸亀の教育の中で強く押し出す形で、校舎の改築や小学校の統廃合時の受け皿として小中一貫校を作るところからスタートしましたが、そのような話がなくなったこともあります。</p> <p>加えて、小学校と中学校が併設されているところの小中一貫教育では、よい実績が出ているところもあるということを聞いたことがありますが、丸亀市の小中一貫教育のあり方みたいなものは少し違うような気がします。効果の上がった教材の見直しや小中の職員交流は、小中一貫教育と銘打たなくてもできることだと強く感じました。</p> <p>例えば、市では、かつて三学期制から二学期制に変更しましたが、検証の結果、再び三学期制に戻しました。このように、小中一貫教育に関しても検証を行い、小中一貫教育自体をゼロベースで見直すという意味も含めて、【廃止】としました。</p>
日野委員	<p>私は【拡充】の意見を出しました。</p> <p>今の学校の先生は、書類の作成等に追われて、本来の子どもとのやり取りや授業のための研修の時間が保障されないような、何のために先生になったか分からなくなるような状況に置かれている場合もあると思います。</p>

	<p>また、なぜ中1ギャップが生じるのかということ、カリキュラムに一貫性がないことが考えられます。小学校に行ったり、中学校に行ったり、人と人が交流しただけではギャップは埋まりません。実際にも、単なる人と人の交流にとどまっていて、カリキュラムの研究やギャップを埋めるための授業内容や方法の研修には繋がっていない感じがしました。</p> <p>そのようなことから、人材と予算の確保が可能なのであれば、それらを使って、先生たちを負担から解放して、本来のカリキュラムや授業方法の改善に時間を使えるようにあげたいという思いでの【拡充】です。</p> <p>しかし、それは難しいと思うので、小中一貫教育としては【縮小】して、本来の業務、ギャップを埋めること等に専念していただきたいと思います。</p> <p>私は【改善】にしました。</p> <p>しかし、今のまま事業を継続するなら予算は縮小すべきです。この前、子どもが「小中一貫ではこんなことをしています」というチラシを学校から持って帰ってきたのですが、中学生が母校の小学校の門の前に立って挨拶運動をしましたというものが掲載されていました。これは予算の要らないものです。</p> <p>加えて、この前の全国学力テストにおいて、香川県は小学校の国語算数は上位なのに中学校になると落ちてくるという結果が出ていました。小中一貫教育の中では「中学校に入って勉強が難しくなった」「勉強についていけない」というようなことを受けて、中学校の先生が小学校に行って授業をしているようですが、小学校の授業がベースにあっての中学校の授業なので、中学校に小学校までの授業で分からなかったところの質問に答えられるような各教科専門の先生を置いて、中学校の授業に集中した方がよいのではないかと思います。</p> <p>中学校の先生が「小学校に行かなきゃいけないし、その準備もしなきゃいけない」では、結局、放って置かれるのは中学校の生徒です。中1ギャップ解消という目的はよいと思いますが、今の内容ならば小中一貫教育ですることではないと感じますし、効果にも疑問があります。</p>
早馬委員	
黒田委員	<p>私は【廃止】の2名のうちの1人なのですが、それは、事業の概要にある「教育研究所において、小中学校教員が合同で小中カリキュラム研修資料の作成」は別事業と思っていたからです。このカリキュラムというのは完成したらお終りというものではなくて、見直して、改善して、中身を変えていくということをしつかりとやっていくべきだと思います。他のことは、皆さんと同じく、小中一貫教育よりは別の事業の方がよいと思いますので、それならば【縮小】かなと今は感じております。</p>
岡本委員	<p>私は事業全部がダメだから【廃止】というのではなく、この事業名は廃止、必要であるもの、効果のあったものは別の事業で行うと考えています。つまり、小中一貫教育を推進する必要はないという意味です。</p>

	<p>教育の中でしなければならぬ事業はたくさんありますが、同じ予算を使うなら、予算がもっと有効に子どもたちへ向けられるような使い道があるのではないのでしょうか。カウンセラーの増員や中1ギャップや不登校への対応など拡充して欲しいものがある一方で、このような事業に予算を使っているのであれば、この事業を【廃止】して、新しい事業の組み直しをするという形がよいと思います。この事業の中で、本来の目的に対して有効かどうか分からないものまで盛り込む必要はなく、それぞれ、しかるべき目的の事業において予算措置すべきです。これを機に、成果の上がらない事業は見直し、【廃止】を見据えた【縮小】という形の方がソフトではないかなと思いますが、まずは、小中一貫教育を【廃止】するところから始めて欲しい気持ちがあります。</p>
<p>金会長</p>	<p>今の話ですと、ある事業については必要ない、ある事業についてはよい部分を残したいというものがありました。この場合、一度これを【廃止】して新しい事業としたほうが効果的なののでしょうか。それとも【縮小】としたほうが良いのでしょうか。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>【拡充】【改善】【維持】【縮小】【廃止】の方向性は、この委員会でどのようなメッセージを配信するかで決めていただいくのがよいと思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>【縮小】だと基本的なところは変わらずに、悪いところもそのまま残っていくという不安があります。また、【廃止】ならば、新しい事業で良いところまで消えてしまっは残念だと思います。</p>
<p>石原委員</p>	<p>その方向性は、とりあえず来年度だけのことを考えて検討するのですか、それとも3～5年先まで見据えてするものですか</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>基本的には、来年度予算への反映を考えていますが、もう少し先まで見据えた意見をいただけるなら、それも盛り込んでいきたいと思っています。</p>
<p>金会長</p>	<p>私は、本当は【廃止】でもよいと思っていたのですが、【縮小】とさせていただきます。最初、中1ギャップ解消のための事業だと説明されていたので、この名称では全然一致しないと思い【廃止】と考えましたが、この教育研究所の様々な取り組みは、これからも活かしていった方がよいかなと思い【縮小】にしました。ですが、今のお話を聞いて、ばっさり【廃止】にしたほうがすっきりするのかなとも思います。</p>
<p>森副会長</p>	<p>私は、現在の取組は小中間の教員の異動があればまかなえるのではないかと考えました。当面は、お互いにカリキュラムが分からないといった面もありますので、教員異動と並行して、相互の理解を深めるために事業を残しつつ、将</p>

<p>仁科委員</p>	<p>来的に小中一貫教育は解消していけば良いと思い【縮小】にいたしました。</p> <p>教育は長い目で見ないと、なかなか短期間で成果が上がるものではないので、判断しにくい一面もあります。</p> <p>私は【改善】にしましたが、「中1ギャップの解消」が大きな目的であれば、【廃止】の見方もできるのではないかと思いました。よいところは残して、新たな事業に活かすという基本姿勢を示した方がよいとは思っています。</p>
<p>早馬委員</p>	<p>一度ゼロにして、よいところは引き継ぎつつ、新たに事業を構築し直すことがスムーズだと思います。一から事業を立ち上げるとなると、期間にロスが生じるのではないのでしょうか。【廃止】となると、全て一から立ち上げることになるのですか。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>【廃止】となると、そのようなメッセージを入れなければいけないのかなと思います。今、学校群の連携協議会を母体として活動しておりますので、それを一旦無くして、新たに立ち上げましょうという形になると思います。</p>
<p>早馬委員</p>	<p>動き始めてから、それが子どもたちに反映されるまでに、どれくらいの時間がかかるのでしょうか。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>今のところに来るまで3～4年かかっています。見直しのやり方次第だとは思いますが、新たに定着するまでに同じくらいはかかると思います。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>私は小中一貫教育が要らないと思っているため【廃止】としました。</p> <p>小中一貫教育でなくても、交流のように教員の異動でまかなわれるものやカリキュラムのように教育研究所で研究し続けることでできるものもありますので、今までの小中一貫教育を推進するという形態そのものをやめるという意味です。今、この委員会で【廃止】を打ち出しても、総合計画の重点項目ですし、すぐには難しいと思います。しかし、【廃止】や【縮小】という意見が出ることで、今後、市は小中一貫教育を進めるのか進めないのか、進めるならどういった方向で進めていくかという議論が起こるだろうと考えています。「あまり成果が上がってない」と評価されることで、始まるものがあると思います。</p> <p>「小中一貫教育を推進する」と打ち出したものが、当初の構想から何となく形が変わっても存続しており、検証がなされていません。小中一貫教育についての議論は今が初めてだと思うのですが、この委員会で「こういう形で解消できるのではないか」という意見が出たということを教育委員会にも知って欲しいし、市が総合計画で進める35の施策をもう一度考え直す契機にもなって欲しいと思います。</p>

<p>大林企画財政 部長</p>	<p>その通りだと思います。この貴重な意見が次に反映されるのか、教育委員会を含めた各方面にもどこまでアピールできるかというところは重要です。この委員会は、市のいろいろな事業を評価するという非常にインパクトのある委員会だと思いますし、そこでの評価も大きな意味を持つと思っています。なので、思い切った評価をいただきたいと思います。</p> <p>今回の場合、【廃止】という意見があるということを発信していくことが大切であり、あまり気を遣わず、どんどんいろいろな意見を発信して欲しいと思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>他に意見がないのであれば、採決に移りたいと思います。</p> <p><改善1、縮小4、廃止3></p> <p>委員会の方向性としては、【縮小】で決定します。</p> <p>次に「事業No.2 自治会振興費」に移りたいと思います。「改善5、維持1、縮小2」で【改善】が多いですね。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>私は【廃止】という気持ちの【縮小】にしました。</p> <p>そういう目で【改善】の意見を見ていると、私とそんなに変わらないように思います。</p>
<p>仁科委員</p>	<p>私は、あまり厳しい答えを出すのは辛いと思い【廃止】の気持ちはあるのですが【改善】にしました。</p> <p>加入率が 57.7%ということが自治会に対して考え直すことを意味すると思います。42.3%の方の自治会に加入すらしていないということを考慮して【改善】にしました。</p>
<p>石原委員</p>	<p>私は【改善】にしました。</p> <p>前向きに取り組む姿勢を地域振興課で指導的にアドバイスをすれば、予算がなくても、よいコミュニティになっていくと思います。もう少し指導育成に力を入れて欲しいです。</p>
<p>黒田委員</p>	<p>私は【改善】です。</p> <p>そもそも自治会がなぜ必要なのか。自治会とはそもそも自主組織なのに、なぜ補助金を出すのかということをはっきりさせるべきです。</p> <p>私は自治会という名称自体を疑問に思っていますが、加入していない約 43%の中には、同じような抵抗を感じている人たちがいると思います。もう一度、自治会の必要性、自治会とは何かというところの認識から初める必要があると思います。加えて、現行の一世帯あたり 300 円補助するという制度に対しての</p>

<p>早馬委員</p>	<p>見直しが必要ではないでしょうか。</p> <p>また、地域の連携を行政が主導し、結びつきをしっかりとものにすることも必要だと思います。誰か旗を振る役が必要であり、そういう意味で、行政がある程度介入する必要があると思います。「地域でいろいろなケースがあるよね」、「連携って大事だよね」ということも啓発していくことも必要です。そういった自治会振興であれば、中身の見直しは必要ですが、残してもよいと思いました。「そもそも自治会って何ぞや」ということを行政が見直し、しっかり考え直した上で、事業を推進していくことが大事ではないかと思いました。</p> <p>私は【縮小】にしました。</p> <p>我が家は43%の一軒です。ごみ収集は自治会に加入してなくても市が回収してくれますし、自治会に加入していないからといって、今のところ普段の生活に困っていません。なぜ自治会に入った方がよいのかを理解できていないし、必要性も感じていません。</p> <p>また、自治会に対して1世帯につき300円補助があることは知りませんでした。市は、その300円が何に使われているか把握できていないようですし、管理もあまりできていない補助金なら、もっと自治会運営に必要な別のところに出した方がよいと思います。</p>
<p>黒田委員</p>	<p>今の話でも、自治会の意義が分からないまま税金が使われ、一体何なのかという話になると思います。自治会に入らなくても、ごみを捨てることはできるし、入ると面倒なだけという程度の認識しかないわけです。それがそもそもダメだと思います。コミュニティの連帯のような、隣近所でもしものときには手を貸しましょうという、そういうところまで自治会は意図しているんだということを周知し、本来の意義をもっとしっかり考える契機を市は作るべきだと思います。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>自治会のあり方自体について疑問があり、それを切実に感じているから、この補助金にも疑問を持っています。この補助金にどのような効果があったか、市が出すべきものかどうか、考えていきたいと思っています。</p> <p>また、1世帯あたり300円の使い道すら把握できていない補助金なら、この際止めるべきかと思っています。今の丸亀にはコミュニティ組織があります。コミュニティの活動がなされている中で、なぜ自治会振興費があるのか、慣例で出している部分があるのではないのでしょうか。そういった漫然と支出される補助金は見直すべきだと思いますし、今、自治会が補助金を何に使っているか不明なので、その効果もゼロといわざるを得ません。補助金の使い道についての報告書もないような予算執行はやめるべきです。</p> <p>また、連合自治会長に出ている報酬も、他の事に使うことはできないでしょうか。コミュニティが自治会の延長という形で運営されているということを変</p>

	<p>え、自治会には入りにくいがコミュニティの一員ではあるという意識付けのためにも、自治会だけに出ている予算をやめることは、大きな効果があると思います。</p> <p>単位自治会への補助金は【廃止】、連合自治会長への報酬は【縮小】とすることが、自治会のあり方を見直す、その第一歩だと思います。</p> <p>自治会のあり方を見直しなさいとして【改善】にしたのでは、見直されることはまずないと思います。自治会という組織を見直す一環として、「自治会が当たり前のように貰っているものを、どう変えていくか」という視点で見直して欲しいです。【改善】や【縮小】で300円が200円になるようなことは違うと思います。各自治会が補助をもらうためには、加入率アップのためにどんなことをしますという報告があるべきです。</p>
日野委員	<p>自治会によってやっていることは違うと思いますが、何をやっているかが見えません。</p> <p>私は、以前は自治会に加入していませんでした。理由は、集金などの活動を断ることで自治会から色を付けられ、それならば加入しない方がいいと思ったからです。現在はマンション暮らしで、マンション生活はいろいろな利害関係がぶつかるので、暮らしにくくなるということで、そこでは自治会に加入しました。しかし、どこまでが自治会の活動か、全体像が見えません。難しいかもしれませんが、「こんなことをするので、これだけの予算が必要です」ということで補助をもらうのが普通だと思います。それが一切行われない出し方は、改善の時期に来ているのではないのでしょうか。</p> <p>まずは、自治会の活動の範囲を明らかにする。その中で、この活動には予算が必要だというならば、それは助けるべきだと思います。</p> <p>補助に対して漫然と受け取っているというやり方を見直すだけでもインパクトがあると思うので、【縮小】か【廃止】と考えました。</p>
森副会長	<p>私は、自治会は必要だと思います。加入率には問題がありますが、今は高齢化社会で、地域の結びつきがなければ、孤立死といった可能性もあります。</p> <p>しかし、補助金の使い方ははっきりさせるべきで、そこで、行政がどのような手助けをできるかという問題もあると思います。</p> <p>地域の結びつき、子どもの安全安心を守るのは自治会の役割であるという観点から、自治会は必要であり【維持】としましたが、改善は必要だと思います。</p>
仁科委員	<p>自治会があってもいいと思いますが、税金を投入することに対しては抵抗を感じます。自治会は確かに大事な役割を持っていますが、1世帯300円とはいえ、私たちが支払った税金の中からこれを投入する点は、見直す余地が十分あると思います。</p> <p>地域のコミュニティといいますが、今までの考え方が変わらないかぎり、絆</p>

	<p>はできないと思います。自治会は必要ですが、自治会に対する税金からの援助は一切必要ないということを、ここで表明したいと思います。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>この方向付けをする中で、【縮小】【廃止】【改善】で話が進んでいますが、【改善】【縮小】となった場合、できるだけ個々の具体的な根拠付けがあって欲しいと思います。「この事業においては・・・」、「この費目に対しては・・・」など、もう少し細かいメッセージを委員会として入れていくことも必要だと思います。</p>
<p>仁科委員</p>	<p>今の事務局の話ですが、もっと詳細な資料がなければ具体的な意見まで踏み込むことはできません。詳細が分からない以上、どうしても抽象的な問題で話してしまいます。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>少し踏み込んだメッセージがあれば所管課もどの部分を検討したらいいか分かりやすいという意味からですので、できればという意味でのお願いです。</p>
<p>金会長</p>	<p>評価の根拠として、可能な範囲で具体的なメッセージが欲しいということですね。それでは採決に入りたいと思います。</p> <p><改善3、縮小4、廃止1></p> <p>委員会としては【縮小】という方向性で行きたいと思います。 どこの部分を【縮小】するかという議論になると思いますが、補助金の出し方が意見としてありました。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>市が使い道、内容を把握できていないということもあります。</p>
<p>金会長</p>	<p>最後になりましたが、「事業No.1 コミュニティバス・生活バス路線等運行維持費」に移りたいと思います。</p> <p><拡充4、改善3、維持1>となっていました。これについて意見をいただきたいと思います。基本的に必要性の部分は多くの方が支持していますが、有効性・効率性の部分で何かご意見はありませんか。</p>
<p>日野委員</p>	<p>これまで、バスを利用していない人に利用してもらうにはどうしたらよいかというアンケートが行われていません。利用者を増やしてどれくらい赤字が解消するかは分かりませんが、利用者を増やすことは、市民の足として大きな意味があると思いますので、それはした方がよいと思います。また、同じ意味で赤字は拡大するかもしれませんが、利用者1人あたりでの赤字が減るなら便数は増やした方がよいと思い【拡充】としました。</p>

金会長	一度やってみてダメなら再検討ということですね。
日野委員	随分昔に、どこかの過疎の地域で、実際に三倍くらい増やしたら黒字になったというケースを聞いたことがあります。今の時代、どの家庭も車を持っているため難しいでしょうが、検討してみてもいいのではないかと思います。
石原委員	市民にバスの利用促進に対する意識を育てなければならないと思います。日頃、空のまま走っているバスを見ていると、市民生活に何の影響もないため、いざ廃止となっても市民は何も思わないのではないかという怖さを感じます。税金で走っているバスだというキャッチフレーズを出すなどして、意識改革を図るべきだと思います。【改善】としましたが、運行に対しては【拡充】くらいでもよいと考えています。
仁科委員	このバス路線は変更できないのでしょうか。私は【改善】として、11号線を南北に分けて路線を4つにし、小回りの効くバス路線にはできないのかと思いました。基本的には、JRや大型ショッピングセンター、中核の病院を中心としたバス路線のあり方を考えたほうが、乗車人数が増えるのではないかと思います。
小山政策課長	路線については今まで何度も見直しをしてきました。最初は合併時に各市町のバス路線を見直しました。その後、一番利用の多い路線編成へ変わってきており、定期的に見直しは行われております。
金会長	<p>特にご意見がないようですので、採決に入りたいと思います。</p> <p><拡充4、改善3、維持1></p> <p>委員会としては【拡充】という方向性で決定いたします。</p> <p>長い時間皆さんありがとうございました。10事業についての方向付けが終わりましたので、最後になりますが、報告書の内容について少し議論したいと思います。まずP1～4でご意見がありましたらお願いします。</p>
岡本委員	P1の2段落目に「10の予算事業を抽出して、必要性、効率性、有効性の視点から評価し、各委員の意見を集約したうえで、委員会として今後の事業の方向性を示したものです」とありますが、今回、最後のページに全体的な意見や提言を載せることになったので、10事業だけでなく全体としても評価したということを含めた一文が欲しいと思います。

金会長	それに合わせて目次のところも変えてください。
石原委員	そのページの文言は抽象的すぎると思うので、もう少し具体的にした方がよいと思います。趣旨を的確に捉えることができればよいのですが、どうにでも解釈できるものとなっています。
政策課渡辺	これは各委員の方の意見をできる限り生かした形で載せています。
金会長	これは委員会としての提言ではなく、各委員からの提言レベルに留めておいた方がよいと思いますが、いかがですか。委員会の意見としてまとめるとなると大変なので、委員会の中で出された各意見という形で公表できたらなと思っています。
森副会長	各事業にも委員のコメント欄がありますので、最後も同じような考えでよいと思います。
日野委員	例えば、「事業全般に対する各委員からのコメント」というように見出しも変えた方が、よりよいと思います。
仁科委員	今回は事業全体を見つめました。報告書の内容は10事業にとどまっているので、「全般」としない方がよいと思います。
金会長	委員会として全体への意見とするのではなく、10事業についての評価を通して各委員が事業に対して持たれたご意見というものにした方がよいかもしれません。評価の過程で各委員から出たその他のコメントという感じではいかがでしょうか。事務局の方で取り計らってください。 また、前回と今回で出席委員数が違うので、多数決の合計数が事業ごとに異なるのですが、その点についてはいかがでしょうか。
小山政策課長	その点については、注釈を入れて多数決時の人数を明らかにして対応したいと思います。
金会長	次にP6以降になりますが、評価の根拠欄で、少しニュアンスが違うとか、間違っている、抜けているという部分があれば、ご意見をください。
小山政策課長	あと、各委員からのコメント欄について、【拡充】【改善】【維持】と見出しをつけていますが、このままでよいですか。議論の中で、意見は変わらないが方向性は変える場合もありましたので、ご意見があれば修正したいと思います。

金会長	<p>見えていて分かりにくい面もあるので、コメントの中の【拡充】【改善】などの見出しをなくしてしまってはどうですか。</p>
岡本委員	<p>あと、P19の「各委員からのコメント」の部分で、「女性の社会進出の面から土日利用についても検討する必要がある」という部分ですが、あまり女性を強調すると、「子育てイコール女性」というイメージが強まるため、「就労の面から施設を利用できない保護者への対策として、土日利用の検討」としていただけないでしょうか。もしくは、「女性の社会進出を応援するためにも」と変えていただけたらありがたいです。</p>
小山政策課長	<p>了解を得ましたので、そのようにします。</p>
金会長	<p>他に何かありませんか。 それでは、誤字脱字等の確認も含めて、本日の議論を基に事務局で報告書をまとめ直してください。以上で、議事(1)を終了いたします。 次に、議事(2)その他について、事務局のほうから説明をお願いします。</p>
政策課渡辺長	<p>(次回の日程及び市長への報告書提出についての説明)</p>
金会長	<p>それでは、以上で本日の会議は終了します。お疲れ様でした。</p>